

YOASOBI の『群青』、最高！！

大晦日の紅白歌合戦、オワコンとの評価が年々高まっているが、YOASOBI の『群青』のパフォーマンスだけは真剣に観た。MC 川口春奈さんの紹介でもこの曲は「若い人たちへのエール」だというようなことを言っていた。あれだけ大勢で奏でられたコーラスは、圧巻だった。また、ボーカルの Ikura さんの透明感のある声と表情が「大丈夫だよ」と語ってくれているみたいで、安堵した。私が好きな歌詞は、

「感じたことない気持ち
知らずにいた想い
あの日踏み出して
初めて感じたこの痛みも全部
好きなものと向き合うことで
触れた小さな光
大丈夫 行こう あとは楽しむだけだ」の部分だ。

挑戦しなければ、できるかどうかはわからない。やってみて初めて分かることもたくさんある。「小さな光」とは、自信だと解釈している。初めからできる人なんていない。悔しさ、情けなさ、苦しさ、痛み、不安、「自信がないから」何度も何度もやってみる。そして、そうして「積み上げてきたものが武器になる」そうやって「青い光」を見つけ、「かけがえのない僕」に成長する。改めて素敵な歌詞だと思う。

『16歳の教科書 なぜ学び、なにを学ぶのか』（講談社）から

ドラゴン桜を知っているか。2021年4月から6月に放映されたテレビドラマだ。その第1シリーズは2005年に放映されたが、この本はその公式副読本として発行されたものだ。この中に分かりやすいたとえがあるので紹介する。「人間って、技術と経験を積んでいけば、階段を上るようにして自分の視点が高くなっていくでしょう。そして、見える世界が変わってくる。夢だの目標だのは、そこから先に考えても、全然大丈夫なんだ。じゃあ、夢も目標も見えないのに、なんのために勉強しているのか？なんのために働いていくのか？そして、なんのために生きているのか？僕は『クレジットを高めるため』という言い方をしています。クレジットというのは、他人からもらえる信頼や共感、信任の総量のこと。もし、クレジットという言葉がわかりにくければ、ロールプレイングゲームの『経験値』みたいなものだと考えてもらっていい。要するに、外に出て、闘って、経験値を上げていかないと、賢者にも会えないし、魔法も使えないし、勇者の剣も見つからない。もちろん次のステージにも行けないし、大ボスのドラゴンも倒せない。お姫様を救うこともできない。だから、クレジットが低いままというのは、ずっとレベル2とかレベル3で、こん棒を武器にスライムと闘っているようなものなんだよ。『できること』がものすごく限られていて、ちっとも面白くないの。でも、クレジットが高まると、他人からアクセスされるようになるし、アクセスできるようにもなる。そうすると他人の力を使えるようになって、よりの確な納得解が得られるようになるんだ。そうやってクレジットを高めることを先にやってから、夢を抱く方がずっといい。」（前述藤原和博）日本には、職業が約20,000種類あると言われている。君たちのわずか16～18年の経験で、住居を中心とした狭い生活範囲で、自分に合った職業を今的確に見つけられる方が奇跡ではないか。

君たちにはまだ知らない世界が無限に広がっている。そこで出会うヒト・モノ・コトこそが宝だ。

We keep on challenging. 挨拶日本一の高校を目指して 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩